



スイス ユングフラウヨッホ駅と連なるアルプス山脈
ユングフラウ鉄道の最終駅は、ヨーロッパの駅で最も高い場所(標高3454m)にあります。

2010年を迎えて

特定医療法人共和会
理事長 加藤 仁

新たな時代を迎えて、昨今の変化はITに呼応するように急速に変わろうとしております。これまで日本は世界の経済大国とか言われながらも、他国に比べ弱いお年寄りや子供たちの保護、また権利を忘れてきた様な気がいたします。日本が経済大国になれたのは、国民が権利の主張と義務責務のバランスを失い、自己の欲求を満たすだけの金品の獲得や生活の向上を求めた結果なのではないでしょうか。おそらく皆様は「すべてはお金でなく、心である」と、頭の中ではわかっているはずであり、心こそが「安心の源」とわかっておられることと思います。

ところで、昨年の政権交代劇はすさまじい国政変化でした。皆様の希望である「安心と信頼のできる国」が急速に実現出来るものではありませんが、国民ひとりひとりが責任をもって意見を言い、また行動出来るような時代の到来と言っても過言ではありません。

これまで特定医療法人共和会は共和病院と共に「優しい医療」「楽しい職場」作りに取り組んでまいりました。2010年はさらに「安心と信頼のできる医療、福祉」を実現する病院になれる様、努力する所存でございます。



日本医療機能評価機構
認定シンボルマーク

TOPICS・EVENT

包括的暴力防止プログラムの導入

包括的暴力防止プログラム(Comprehensive Violence Prevention and Protection Programme:CVPPP)とはその名のとおり、広い範囲にわたって(Comprehensive)、言葉によるものも含め

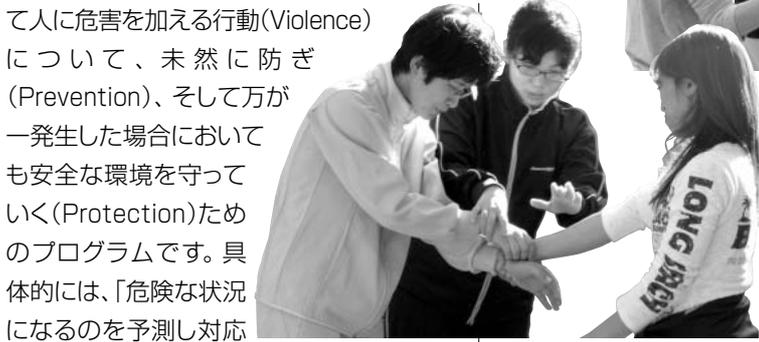


て人に危害を加える行動(Violence)について、未然に防ぎ(Prevention)、そして万が一発生した場合においても安全な環境を守っていく(Protection)ためのプログラムです。具体的には、「危険な状況になるのを予測し対応

する知識」「お互いに興奮状態に陥らない技術」「暴力が発生したとき、危険な場所から安全に離れる技術」「暴力に対し、チームで安全に介入する技術」「暴力が収束した後、どうして危険な状況になったのか振り返る方法」といった5つの要素で構成されています。ただ単に身体的な暴力行為を物理的



な力で防止するというものではありません。医療の現場において質の高いケアをしようとすればするほど、実は職員が暴力を受ける危険性も高くなります。病の中で苦しみ、時に混乱の中で過ごさざるを得ない患者様の傍に日常的に寄り添うからです。そして、暴力によって一番の不利益を被るのは他ならぬ患者様でもあります。外傷を負ったり、



物を壊したりといった物理的・身体的不利益に加え、周囲の信用を失うといった社会的不利益があるからです。

こうした不利益から患者様を守り、療養生活を支えていくためには、気配りや細やかな観察に加えて、暴力に対する体系だった専門的な知識を持つことが重要となります。突発的に起こる暴力に対して安全に対応すること、患者様も職員も、安心して過ごせる環境を提供していくことを目的として包括的暴力防止プログラムがあります。

当院では、暴力対策に2003年から取り組み、2008年よりCVPPPを導入いたしました。2009年度は3回の研修を計画し、第1回を7月、第2回を11月に実施し、合計56名の職員が受講しています(第3回は2月実施予定)。今後も職員を対象に研修を実施し、患者様にとって安心した療養ができる環境作りを行なっていきます。

(CVPPPトレーナー 今村 諭史)

プログラムを受講して

恥ずかしながら私は看護師でありながら名前だけしか知りませんでした。包括的暴力防止プログラム…「暴力防止」の言葉からは荒々しい危険な感じを想像しますが実際はそうではなく、暴力への適切な介入法と教育を行なうことで、お互いに安全な環境を守ることが期待して作られたプログラムです。

研修は1日を通して行なわれ、午前は暴力に対する知識、攻撃のサイクルモデルなどを講義形式で学び、午後は身体介入技術について実践形式で学びました。

なかでも興味深い内容として“普段”の状態から、暴力についての分析をするという事です。暴力の誘因となるものとしては、環境・自由の束縛・有効な活動不足・人員の不足・悪い知らせ、などがあげられます。そしてなんらかの刺激が加わり攻撃性がエスカレートして

いく際には、適切な介入方法を行なうことで、怒りや衝動性、攻撃性を和らげ、普段の穏やかな状態を取り戻せる可能性が大きくなるのです。具体的な介入方法としては、曖昧な言動を避ける・低い声で静かに話す・相手が意見を表現できるように助ける・批判をさげ感情を話すことを認める・相手に考える時間と余裕を与え急がせない・口論によるエスカレートを避ける・守れない約束はしない、など特別難しいことではなく、誰でも意識すれば行なえることです。その知識を得たことで、自分自身の気持ちに余裕がもてることを感じました。

精神科において、誘因であげた自由の束縛・有効な活動不足については入院治療上限界があります。看護師として患者様の小さな変化に気づく力を磨き、普段から有効なコミュニケーションをとり、関係作りをしていくことが、ここで得た知識を十分に発揮できることと感じ、さらに日々の看護を見直していきたいと思いました。

(看護部 荒川 明日香)

栄養課



こんにちは、栄養課です。

栄養課の仕事で1番に挙げられるのは、何と言っても入院患者様への「食事の提供」でしょう。当院の給食部門は外部委託しており、栄養課では委託先である丸玉給食(株)さんと協力して、患者様の症状に応じて食事内容を変更し、みなさんのニーズにあった美味しい食事が提供できるよう日々努力しています。

また栄養管理部門では入院患者様や外来患者様に栄養指導を実施し、入院患者様に対する栄養ケアにも力を入れており、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士と連携して栄養サポートチーム(nutrition support team: NST 多職種連携の栄養ケア)の活動を行なっています。

他にもみなさんの生活習慣病改善のお役に立てればと、内科

の保原医師とともに第1外来待合室を利用して、隔週月曜日に「メタボリックシンドローム教室」を開催しています。この教室は、患者様・当院職員はもとよりデイケアセンターの



ご利用者様まで広く門戸を広げています。教室に参加された動機を訊ねてみると様々で、「やせてキレイになりたい」というものから「健診でメタボを改善しなさいと言われた」「減量したら生命保険の掛け金が安くなるから」など、切実な思いの方もいらっしゃいます。ダイエットや健康に興味があってもなかなか自分では最初の一步を踏み出すのは困難です。また自分の意識だけでは継続は難しいものでしょう。参加者の中には実際に半年で10kg以上減量し、減量後の体重を今でも維持できている方もいらっしゃいます。この教室は今やせたいと思って悩んでいる人と、ダイエット成功者の意見交換ができる場です。少しでも興味がある方は、是非遊びに来てください。

至らない面もあるかとは思いますが、私たちは1人でも多くのみなさんが健康な生活を送れるようサポートを続けていきます。

管理栄養士 伊藤 真理子

こころの健康 フェスティバル に参加して

平成21年11月14日(土)阿久比町勤労福祉センターにて「平成21年度 知多半島地域 こころの健康フェスティバル」が開催されました。

当日の朝はあいにくの天気でしたが、フェスティバルの開催を応援するかのように開催前には雨が上がり、「地域活動支援センター カジュアルハウス」のメンバーによる「こころむオカリナ演奏で、フェスティバルが開会しました。「ワークルームかめ」の方たちによる、笑いっぱいのお話や歌によるパフォーマンスは、日常の活動光景が目に見え、みなさんのパワーを感じながら観賞させていただきました。

創作展示コーナーでは、自由な発想で作成された様々な展示品があり、作成者がこころを込め作品作りに取り組んでいる様子が伝わってくるものが幾つもありました。また、知多半島地域の医療機関やボランティアグループなどの取り組みも紹介され、私にとってはそれぞれの特徴や地域性を知る良い機会になりました。

複雑な社会環境の中、「こころの病」を持つ方々が年々増加しています。そして誰にも相談できず、悩みや問題を抱え込んでいる方々は、いまだ数多くいらっしゃいます。こうした方々が安心して相談でき、生活ができる環境をさらに広げていくためにも、医療に携わる我々が、地域や行政、当事者やそのグループの方々と今まで以上に密な連携をとることが大切です。そして、様々な方面に「こころの病の手助け」として、常にメッセージを送り続けられるよう取り組んでいかなければならないと改めて感じさせられた1日でした。

看護部 今川 卓



編集後記



表紙の写真は、スイスの登山鉄道でユングフラウを登ったとき、雄大な自然に感動しながら撮影したものです。標高3454mから見た銀世界は、どこまでも晴れわたる空と張りつめて澄んだ空気が印象的でした。「シャッターを切る」と表現されるように、写真は時の瞬間を切り取る感覚がありませんか? 時を経て再び写真を見ると、その時の感情や記憶が情景とともによみがえることがあると思います。年4回発行している広

報誌も、共和国の「現在」を映し出しています。文章や写真とともに、その向こう側にある私たちの気持ちを感じていただければ幸いです。

さて、今年の風水ラッキーカラーはゴールドです。全ての災いを反射させ跳ね返す「無敵」の色で誌面を彩ります。新たな時代を迎え、希望に満ちた年を皆さんとともに協力し創っていきましょう!
(H.M)

さつまいも 収穫祭

平成21年11月6日、秋晴れの中、当院 作業療法「農耕クラブ」で手塩にかけて育て

てきた“さつまいも”の収穫を、施設課・保育所たんぽぽ・C-1病棟と共に「さつまいも収穫祭」という形で開催する事ができました。作業療法を受けている患者様にとっては、「人のために…」と

いう自己有用感や達成感から生まれる自信や、社会に出て行く準備に繋がり、またC-1病棟の患者様にとっては、昔の記憶を呼び起こし、人生を回想できる場面となり、そして保育所の園児にとっては自然にふれる体験の場となり、一石二鳥というより一石三鳥…四鳥にもなるような充実した時間を過ごす事ができました。

収穫は、5cmほどの小さいものから、40cmほどの大きいものまで、大小あわせて約500本ありましたが、親御さんか保育所スタッフの躰が良いのか、はたまた施設課スタッフの策略か？ 収穫したもののうち立派な選りすぐりのさつまいもを保育所の園児が確保するという園児たちの「生きるたくましさ」に胸を打たれつつ、収穫祭を無事終える事ができました。

さらに2週間後に開催した「感謝祭」においては、農耕クラブの患者様と作業療法課で、入院患者様に焼き芋をふるまい、こちらは収穫祭以上の



大盛況で、炭火を囲んで暖をとっている光景は、なんだか懐かしい気分させら

れました。日頃、農耕クラブの作業療法としてリハビリテーションを受けている患者様にとっては、非常に良い成功体験となり、終了後の達成感に満ちた表情がとても印象的でした。

また、このような企画が、作業療法活動のみに止まらず、患者様や職員にとっても充実したものとなり「優しい医療・楽しい職場」の実践につながるよう、より一層の努力をしていきたいと思ひます。

最後に、ご協力いただいた農耕クラブに参加の患者様・各部署職員・保育所たんぽぽの皆様、本当にありがとうございました。

(ちなみに、1月以降、わけぎ・ねぎ・イチゴを当院の売店にて、各一袋100円での販売を予定しています。是非どうぞ…)

作業療法課 梶 佳穂



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは!

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは!

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

- 1.あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
- 2.あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
- 3.あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
- 4.あなたの医療上の個人情報は保護されます。
- 5.あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。

院長 安藤 勝久



お知らせ

●第1回 共和病院 研究発表会

日程／3月6日(土)
時間／9:30～12:00
場所／共和病院 C館4階 多目的ホール

●第12回 共和病院 地域医療フォーラム

日程／6月12日(土)
場所／大府市勤労文化会館

※詳細は、追って院内掲示等でご案内いたします。

特定医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>